

中高一貫ワーキンググループ中間報告

山田 孝・藤田 高 弘
 仲田 恵子・湯澤 秀 文
 中村 明彦

1, WG活動日誌

- 3月4日 教官会議で中等学校新カリキュラム作成ワーキンググループ(WG)選挙
 5名(英語2名 社会科1名 数学1名 保健体育1名)のWG結成
- 第1回 3月8日 活動開始
 丸山先生を囲んで—中等学校構想の学習
 活動内容の確認 役割分担
- 第2回 3月20日 学校訪問の報告1 五ヶ瀬中・高等学校—中村
 学習会1 学習指導要領・中等学校計画書など
- 第3回 4月5日 学校訪問の報告2
 長崎大学附属中学—仲田
 東京国際高校 —藤田
 学習会2 二期制の問題など
- 第4回 4月24日 学習会3 融合カリキュラムの検討など
- 第5回 5月4日 長時間会議
 前期課程(中学)部分のカリキュラム作成
- 第6回 5月8日 学部田畑先生と懇談 ソーシャルスキルプログラムについて
 教育学部シンポジウム参加
 学部安彦先生と打ち合わせ
- 5月14日 学校訪問—信州大学教育学部附属長野中学 山田・中村
- 第7回 5月18日 吉田先生と懇談
- 第8回 5月20日 前期課程部分のカリキュラム検討2
 学校訪問報告 信州大学教育学部附属長野中学 山田・中村
- 5月27日 研究会議—中間報告
- 第9回 6月25日 前期課程の改良
 後期課程(高校部分)の検討
- 7月13日 合同研究委員会
 前期課程カリキュラム案を報告

- 第10回 7月19日 合同研究委員会からの改良点
 福谷先生を招いて—教務関係の問題点
 後期課程の検討—必修教科と選択教科の配当について
- 第11回 7月24日 長時間会議 午後1時より午前1時まで
 後期課程の完成
 文部省提出資料の作成
 移行課程新旧対照表の作成
- 7月26日 本部への補足説明に同行—藤田
- 第12回 8月21日 後期課程(高校部分)最終検討
 持ち時間表の作成
- 8月31日 研究会議への資料作成打ち合わせ
- 第13回 8月27日 研究会議へ向けて準備
- 第14回 8月30日 発表資料の準備 パワーポイントで資料作成
 発表用液晶プロジェクター、コンピュータの調整
- 8月31日 WG最終答申 新カリキュラムの発表

2, 併設型中高一貫カリキュラムの実践計画

(1-2-2-1制に対応して)

- (1) 名古屋大学教育学部附属併設型中学校・高等学校の基本理念(創設計画案より)
- 1) 「ゆとり」の活用による6年一貫の「心の教育」の内容強化。
 - 2) 柔軟で長期に互る選択的活動を活かした多様な「個性的自立」の実現
 - 3) 6年間を通じての「総合的学習」を中核とする「体験的学習」の充実
 - 4) 個別指導による丁寧な「少数教育」の徹底。特に高等学校からの入学者への配慮。
 - 5) 「より高度な学習環境」たる大学・学部との研究・教育両面における連携の強化。
- (2) 併設型を新しい特色とした中高一貫の教育課程の具体的展開
- 1) 併設型の特色としての新しい中高一貫6カ

年の発達区分として1-2-2-1制の導入。
 具体的には、「個性を探る」から「個性を伸ばす」という一貫教育を目的とすして、6カ年を入門基礎期、個性探究期、専門基礎期、個性伸長期の4区分に分ける。

個性を探る			個性を伸ばす		
入門基礎期	個性探究期		専門基礎期		個性伸長期
中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年

- 2) 「総合人間科」(総合学習)を充実させ、教科教育、学校行事、その他の教育をつなぐ基礎教育として展開する。
- 3) 心と身体を支える教育課程として「ソーシャルスキルプログラム」を中高で展開し「心の教育」の具体的な統一を図る。
- 4) 個性探究期・専門基礎期を新しい個性の導入と個性の磨き合いの場とし「融合教育カリキュラム」のための特色ある「新教科(選択プロジェクト)・新教科群」を設置する。
 - 心と身体を健康科学 ⇒ 生命、性、生と死、健康、環境
 - 情報メディア表現学 ⇒ 映像、コンピューター、表現、スピーチ、発信
 - 国際コミュニケーション⇒異文化理解、コミュニケーション、国際交流、アジア理解
 - 共生と平和 ⇒ 福祉、共生、民族、紛争、これからの社会
- 5) 特色ある学習形態の導入として、異年令の構成による学習集団の活用、少人数教育やティームティーチングによる授業を展開する。
- 6) 情報メディア、国際交流教育、大学パイロット授業への受講参加、総合人間科(総合学習)のフィールドワーク等を通して名古屋大学と共に学ぶ。

(3) 3つの柱(総合人間科・ヒューマンプログラム・融合カリキュラム<新教科>)を主体とした教育課程について

中学校教育課程について

	入門基礎期	個性探求期	
	1年	2年	3年
教科			
ヒューマンプログラム			
総合人間科			
新教科		選択プロジェクト	選択プロジェクト

1) 中学課程の特色

入門基礎期(中1)では、「心の教育」(ソーシャルライフ)を重点に置き、選択教科は0とする。

個性探求期(中2・3)では、個性を探る機会として、学びやすい環境を目的とした少人数多展開での実施。具体的には、選択プロジェクトを2年生、3年生の異学年集団での展開。基礎基本の充実とゆとりを考慮した、教科主体の問題解決学習とし、高等学校での新教科群への導入段階とする。

2) ヒューマンプログラムの運用

- 各学年にて行う。
- 道徳・学活・ソーシャルライフ・情報メディア・図書館学として活用し幅広い運用を可能にする。
- 授業は、学年担任団・専門家(非常勤講師)・専任教官(大学関係者)によって展開する。

3) 新教科【選択プロジェクト】について

- ①高等学校課程での融合カリキュラムとの連携を目標に置いて展開。
- ②9教科の教科内でのテーマ学習とする。教科内容を多面的に教材として、普段扱えない教科の内容を、選択プロジェクトの学習として9教科を同時展開。
生徒が追究する事柄を決め、追究計画を立て、自分の学習を進める。学習する教科や内容を自分で選択し決定する。
- ③2年生と3年生の異学年集団による、少人数グループの授業展開。
- ④教科の枠内での課題追究とし、総合人間科(総

合的学習)での教科の枠をで捉えきれないものとの違いや、新教科群での、合科の導入的内容とする。

高等学校教育課程について

	専門基礎期		個性伸長期	
	1年	2年	3年	
教科	□ □ □	□ □	選択	課題選択
新教科群				
ヒューマンプログラム				
総合人間科				

多展開

「心と身体健康科学」
「情報メディア表現学」
「国際コミュニケーション学」
「共生と平和の科学」

を高1・高2に設置する。

- 新教科は教科中心で、教科の枠では扱いにくい教材や内容を多面的なアプローチで展開するものとする。
- 異年令集団で、半期で1講座ずつ履修し、2年間で4講座4単位を履修する。
- 学習形態は、前述の4講座を各2展開、計8展開とし、それぞれ2人ずつのチームティーチングとする。したがって、16人の教員がそれぞれ15人程度の割合で生徒を担当する。
- 2時間連続の授業とし、総合人間科と隔週で実施する。

1) 高等学校課程の特色

- ①専門基礎期(高1・高2)で多展開、少人数教育実施し、基礎力の充実を図る。
具体的には国語総合を4展開、数学Iを5展開、英語オーラルを5展開、家庭科基礎を2展開、情報を2展開とする。
- 生徒の多様な進路要求に対応し、高2・3で理系、文系、芸術系、体育系などに対応した幅広い選択科目を設置する。
- 個性伸張期(高3)では、生徒の興味・関心に応じてさらに多様な科目選択を可能とする。また、3限まで(15単位)を必修授業、4限以降は課題選択科目の時間とし、科目選択の少ない生徒は、空き時間も許可し、下校も可能とする。
- 総合人間科は、2時間連続の授業とし隔週で実施する。
- 「心の教育」の一環として、各学年でソーシャルライフ(1単位)を実施する。
高校一年では、人間関係の融合と活性化のために、教育学部と協力を得て「心の教育」を充実させる。高2・高3では、弾力的に運用する。
- 名古屋大学の集中講座を、各学年1単位を上限として増単位を認める。ただし、卒業単には含めないものとする。

2) 融合カリキュラム(新教科)について

- 新教科として、

併設型中学校・高等学校 中学校教育課程表 (完成型)

教科等		入門基礎期			個性探求期							
		第1学年			第2学年			第3学年				
		教科授業時間	年間授業時間	備考	教科授業時間	年間授業時間	(選択プロジェクト)	教科授業時間	年間授業時間	(選択プロジェクト)		
国語	140	140	(書写35)	105	105	(35) 日本語読求	105	105	(35) 日本語読求			
社会	105	105		105	105	(35) 名古屋入国学 (名古屋から豊洲へ)	85	105	(35) 名古屋入国学 (名古屋から豊洲へ)			
数学	105	105		105	105	(35) 数学の鑑賞 (17) 基礎数学	105	105	(35) 数学の鑑賞 (35) 基礎数学			
理科	105	105		105	105	(35) 進化生地への扉	80	105	(35) 進化生地への扉			
音楽	45	35 (45)		35	35	(35) 音楽と人間	35	35	(35) 音楽と人間			
美術	45	35 (45)		35	35	(35) 美的感性追求	35	35	(35) 美的感性追求			
保健体育	90	105 (90)		90	70 (90)	(35) スポーツ健康科学	90	70 (90)	(35) スポーツ健康科学			
技術・家庭	70	70		70	70	(35) 共生を考える	35	35	(35) 共生を考える			
外国語 英語	105	105		105	105	(35) 国際人開学 (18) 基礎英語	105	105	(35) 国際人開学 (35) 基礎英語			
ヒューマン プログラム	道徳	35	35	<ul style="list-style-type: none"> 情報メディア 四書五経 合礼、家訓 保健の授業 道徳 学活 ソーシャルライフ としての活用	35	35	<ul style="list-style-type: none"> 情報メディア 四書五経 合礼、家訓 保健の授業 道徳 学活 ソーシャルライフ としての活用	35	35	<ul style="list-style-type: none"> 情報メディア 四書五経 合礼、家訓 保健の授業 道徳 学活 ソーシャルライフ としての活用		
	特別活動 学級活動	35	35		35	35		35	35			
	ソーシャルライフ	0	35 (30)		・専門家(非常勤)による授業 ・専任教員による授業 ・学年担任による授業	0		35 (30)	・専門家(非常勤)による授業 ・専任教員による授業 ・学年担任による授業		0	35 (30)
総合人間科	テーマ 生き方を探る	70 105	70	学年担任による授業								
	テーマ 生命と環境				70 105	70	学年担任による授業					
	テーマ 平和と国際理解							70 130	70	学年担任による授業		
選択教科	基礎英語 A・B・C・D	0	0		50	35	2クラス4展開 既習内容の復習 隔週で英語数学 交互に行なう	105	35	2クラス4展開 既習内容の復習		
	基礎数学 A・B・C・D										35	2クラス4展開 既習内容の復習
	選択 プロジェクト										30	85
総授業時間数	980	980		980	980			980	980			

併設型中学校・高等学校 高等学校教育課程表 (改訂版) No.2 1999.9.9

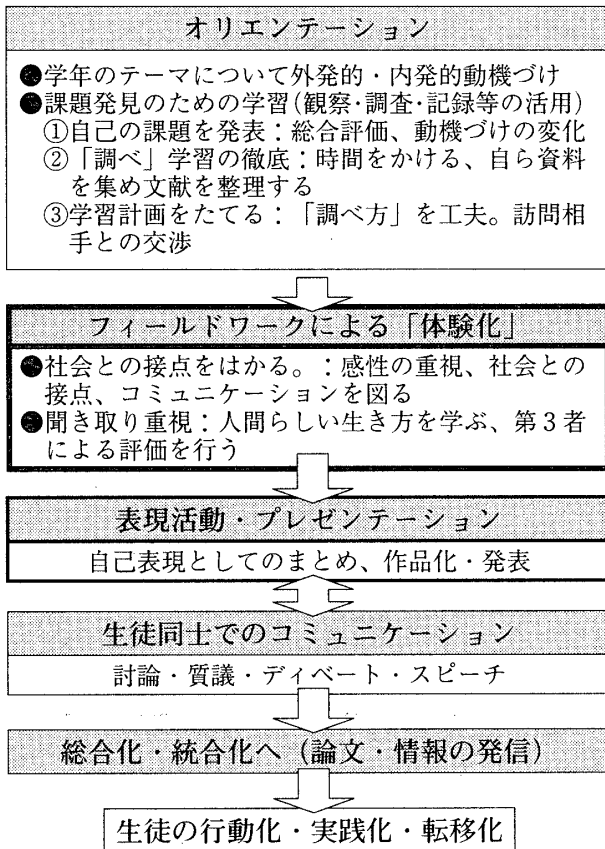
		専 門 基 礎 期							個 性 伸 長 期	
		第1学年			第2学年				第3学年	
群	科 目	標準単位	共通	選択	(新教科群)		共通	選択	共通	選択
国語	国語表現Ⅰ	2	4 (多選) 文学史・応用国語 国語基礎・ビジュアル国語		国語メディア表現	国際コミュニケーション	2	2◆	2	2
	国語表現Ⅱ	2			★児童文学					
	国語総合	4								
	現代文	4								
	古典	4								
地理歴史	世界史A	2	2		★文化遺産 比較文化	★地域学	2▽ 2▽	④	4△ 4△ 4△	④
	世界史B	2								
	日本史A	4								
	日本史B	4								
	地理	4								
公民	現代社会	2		◎心算 ◎カンセリソ ダ		★職業 キャリア	2		2-4△ 2-	
	倫理	2								
	政治経済	2								
数学	数学基礎	2	3 2		◎情報活用		4	2◆	2	2
	数学Ⅰ	3								
	数学A	2								
	数学Ⅱ	4								
	数学B	2								
理科	理科総合A	2	2	◎実験操作	◎自然観察	★自然と人間	2	2◆ 2◆ 2◆	2	2▲ 2▲ 2▲ 2▲
	化学Ⅰ	3								
	物理Ⅰ	3								
	生物Ⅰ	3								
	地学Ⅰ	3								
	化学Ⅱ	3								
	物理Ⅱ	3								
	生物Ⅱ	3								
	地学Ⅱ	3								
	保健	体育		7~8	2	◎生涯スポーツ ◎健康教育				
保健	保健	2								
芸術	音楽Ⅰ	2	2 2 2		◎音楽鑑賞		2	音楽II◆ 美術II◆	2	音楽III 2 美術III 2
	美術Ⅰ	2								
	書道Ⅰ	2								
英語	英語Ⅰ	3	3 2		◎マルチメディア 了表現	★ハンガリー 中国語	2 2 2	2◆ 2◆ 2◆	2	2
	オーラルⅠ	2								
	オーラルⅡ	4								
	英語Ⅱ	4								
	リーディング ライティング	4								
家庭	家庭基礎	2	(2) (2展開)	◎ライフスタイル	◎情報活用	★フェンダー音楽	(2) (2展開)	2◆	2	2
	生活技術	4								
情報	情報	2	(2) (2展開)				(2) (2展開)			
新教科	心と身の健康教育	0.5◆	(2)	①	4講座8展開 編成で2時間連続で展開 半期で1.5単位 2年間で全教科群を履修 異年令集団クラス ティームワークで展開 各教員の進捗は、評定より数値に反映する		0.5◆ 0.5◆ 0.5◆ 0.5◆			
	国語メディア表現	0.5◆								
	国際コミュニケーション	0.5◆								
	共生と平和の科学	0.5◆								
特設	名古屋大学附属	(3)		(1)	夏休み・授業後の進修に参加。単位とし卒業単位にはカウントしない。		(1)		(1)	
総合的学習	総合人間科 生命と環境 平和と国際理解 生き方を考える	3 ~ 6	1	個人研究プロジェクト 研究発表フィールドワーク			1	グループ学習プロジェクト 仲間フィールドワーク	1	個人研究プロジェクト 進路探究フィールドワーク
	ヒューマンプログラム ソーシャルライフ ホームルーム	(3) 3								
総単位数			30				26	4	13	4+α

A. 総合人間科の実践計画

(1) 総合人間科の実施形態

- ◎木曜の5・6時限目に中学1年から高校3年まで全校一斉に隔週で展開。
- ◎養護教諭を含めた全教員が担当する。
- ◎学校行事（林間学校、修学旅行、憲法講演会など）を総合人間科と関連させる。
- ◎学年プロジェクトによる実践（学年テーマを定める。学年担任団が指導計画を立てる）
- ◎学外協力者の利用（名古屋大学の研究者・保護者・地域の人々）。スクールボランティア制度としての活用。

(2) 1年間の学習の流れ

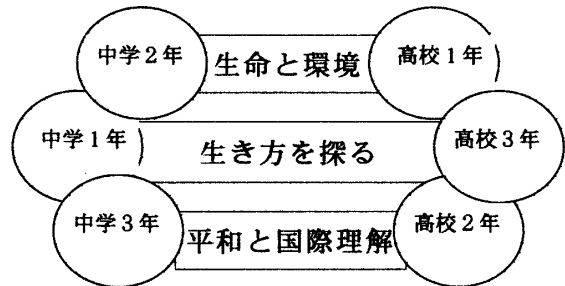


(3) 総合人間科の性格

- ◎脱教科＝現代の課題を学ぶ為に、教科の枠を超える。教師の狭い専門性の脱却
- ◎脱教室＝地域社会に出かける。専門家・担当者の話を聞く。学外講師を招く。
- ◎脱偏差値＝従来の学力観、評価観の転換。多面的に人間との関わりの中で評価。

(4) 各学年の取り組み

◎学年テーマについて



◎各学年の学習内容

中学1年 新しい学年として「人間関係」を大切にする取り組みを展開。コミュニケーション能力、社会との積極的な関わり方を学ぶ。

中学2年 知的関心を高め、その中から問題を発見し探究し解決していく力（問題解決能力）に力点を置いての取り組みを展開する。生命と環境の身近な問題を取り上げる中で発見し総合化する。

中学3年 平和学習を軸に戦争の加害の問題を広島・大久野島をフィールドとして学習する。また、国際理解とは何かをつかむため、名古屋大学の留学生との交流、インターネットでの情報発信を展開する。

高校1年 個人研究（個人学習）による展開。一人ひとりが、自分の学習したい内容を設定して一年間調査研究を行う。

「命」「福祉」「環境」に関する問題まで幅広く、自分の興味関心のある問題について個人研究テーマを決めて行う。

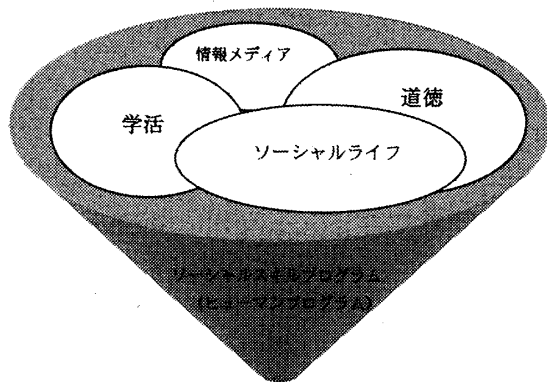
フィールドワークは、実際に訪問して実地体験したり、インタビュー（取材）を通じて研究を深めるものとする。訪問先は、研究テーマにあわせて自分で探し、事後に報告会や報告書の作成により研究成果をまとめる。

高校2年 グループ学習による展開。沖縄研究旅行を中心に授業を行う。沖縄についての事前学習や、名古屋大学教授による特別講義を

経て、研究グループを組織し、研究テーマを決め活動する。沖縄についての理解を深める為に、ディベートや討論の授業を展開する。

高校3年 「生き方」の問題について個人テーマを決めて研究する。単なる「進路」の問題だけでなく「生き方」を中心にして自分の進路を自覚的に選択できるように研究を行う。スピーチと卒業論文でまとめる。

B. ソーシャルスキルプログラム



◎ソーシャルスキルプログラム (ヒューマンプログラム) は、特別活動、学級活動、道徳、ソーシャルライフを総括した名称とする。

◎ソーシャルスキルプログラム (ヒューマンプログラム) の中のソーシャルライフを「心の教育」を授業として展開する科目名とする。

1) ソーシャルライフの各学年における実践計画

中学1年・高校1年

- 人としての関わりを重点に、生き方・考え方を取り上げ理論化、意識化する。
- 学年担任団だけではなく、「心の教育」の担当者として専門家による」授業展開。
- 心理学実験や講義と議論 (討論) を交互に行う。

中学2年・高校2年

○人間として社会 (集団) の中での『気づき』を育てる。

自分の存在に対する『気づき』

他者に対する『気づき』

集団と仕手の『気づき』

○生活の中での問題を扱う

行動の意味・場についての意識・生徒同士で「決める」プロセスを学習。

中学3年・高校3年

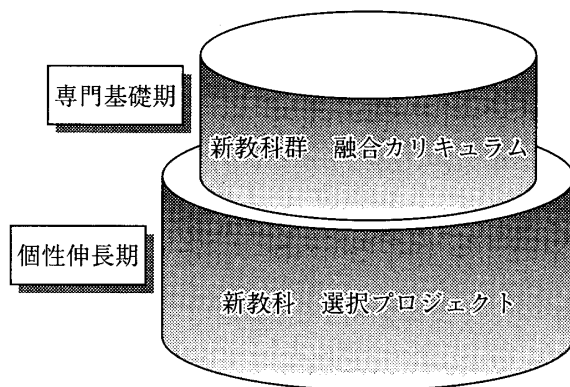
○批判的思考能力の育成

色々な思考力を養っていく。一つの方向からだけでなく、多面的な思考力を養う。

○セルフカウンセリングによる授業展開。

C. 融合カリキュラム (新教科群)

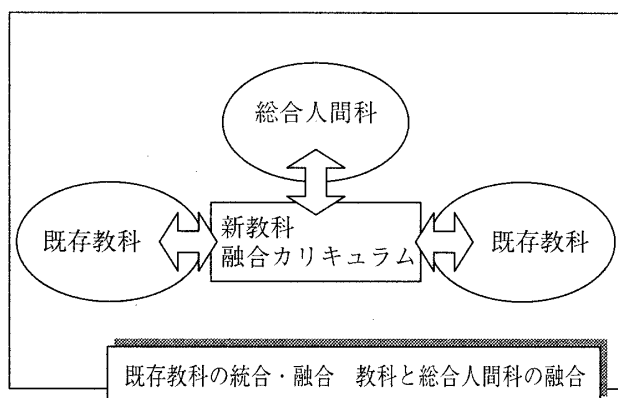
融合カリキュラムとは、「4つの融合 (有機的結合)」を目指すカリキュラムである。すなわち、「既存の教科と教科の融合」、「既存の教科と総合学習の融合」、「併設中学出身生徒と新たに高校から入学する生徒の融合」、そして「学年と学年の融合」である。そして、この「4つの融合」を図る場として、高等学校の1, 2年時に4つの新教科からなる教科群を設置し、中学校の2, 3年時にはその前段階となる新教科「選択プロジェクト」を設置するものである。



このカリキュラムのねらいは、ひとことで言えば「4つの融合」である。まず、「既存の教科と教科の融合」とは、各教科ごとの指導では手薄または一面的指導になりがちな学習領域や、各教科に分散しがちな学習領域に焦点を当て、既存の教科の学習内容を統合・再編していくことである。これにより、教科的視点は持ちつつも既存の教科の枠にとらわれない多面的な学習活動を可能になる。従って、新教科群既存の教科と教科をつなぐものと捉えることができる。

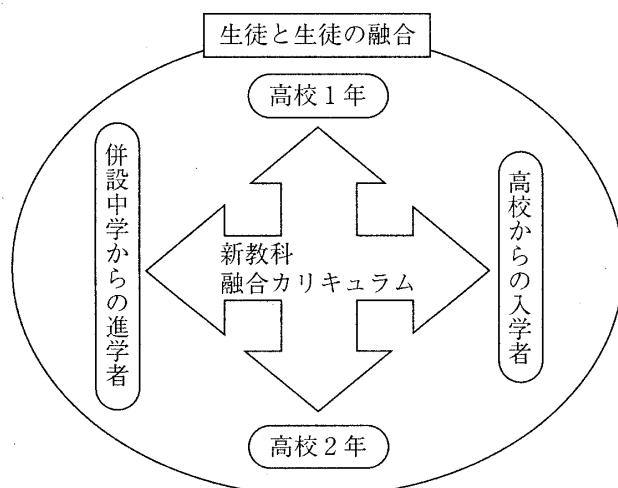
2つ目のねらいの「既存の教科と総合学習の融合」とは、各教科ごとの指導では手薄になりがちな領域、あるいは教科横断的な領域に焦点を当て (総合学習的性格)、それを複数の教科の教師がそれぞれの専門教科の視点を生かしつつ (教科学習的性格)、チームティーチングしてゆくものである。これにより、教科学習から総合学習へ、総合学習から教科学習へ

のスムーズな移行が可能となる。従って、新教科群は総合学習と教科学習をつなぐものと捉えることができる。



3つ目のねらいの「併設中学出身生徒と新たに高校から入学する生徒との融合」とは、併設中学出身生徒がそれまでの総合的学習の経験を生かして、新たに高校から入学する生徒をリードしつつ学び合うことである。これにより、新たに高校から入学する生徒に対する総合学習のスムーズな導入と、新たに高校から入学する生徒と併設中学出身生徒との人間関係のスムーズな融合が可能である。

4つ目のねらいの「学年と学年の融合」とは、このプロジェクトを高1・高2の異学年学習集団および中2・中3の異学年学習集団で展開することである。これにより、学習活動を活性化させ、個性の磨き合いや主体的な学習活動を促し、いわゆる「中だるみ」現象の解消を目指すものである。



以上の「4つの融合」から期待される教育効果をまとめると、1) 多面的な学習活動、2) 総合学習と教科学習の有機的連携、3) 高校から入学する生徒に対する総合学習の導入、4) 高校から入学する生

徒と併設中学出身生徒との人間関係のスムーズな融合、5) 学習活動の活性化による「中だるみ」現象の解消、となる。

①心と体の健康科学

設置のねらい

心と身体を総合科学的に学び、心身ともに健康な生活を送る資質や能力を育てる。

テーマ例

生命、性、生と死、健康、たばこ、薬物、ストレス、青年前期の心理学など。

理科、保健体育、倫理社会、家庭科等の教科の領域が関連すると考えられる。

展開事例

心と身体の問題、人間関係の問題などをビデオ教材や体験談を含む資料、その他の様々なデータを用いて心理学的側面等から捉えたり、討論やロールプレイ等を取り入れる。

受験や進路選択を控え、学習活動や自分探し等に対して不安や焦りを感じたり、自己の理想と現実のギャップ等からストレスを感じたり、逃避的な行動に走ったりすることについて、「ストレス」や「たばこ、飲酒、薬物」をテーマに、保健・理科・倫理等の教員によるティームティーチングを行う。

②情報メディア、表現学

設置のねらい

情報、メディアに対する理解を深め、各教科における基礎的な情報処理の方法を学ぶ。出版物、コンピュータ、放送などのメディアを必要に応じて選択して情報収集、情報処理、情報発信に利用する。

テーマ例

放送劇（国語）、番組制作（地理歴史）、討論（公民）、コンピュータグラフィックス（数学）、自然観察（理科）、舞踊芸術（保健体育）、伝統芸能（芸術）、マルチメディア表現（英語）、住宅設計（家庭）などの展開が可能である。

3) 展開事例

例えば、「マルチメディア表現」の講座を実施する場合、ホームページを利用した日本文化、学校生活

の発信という活動ができる。海外の学校と交流をする際には、相手校の友達に日本の学校や生活文化を写真やイラスト、文章などマルチメディアを利用して紹介することが相互理解を深める有効な手段となる。メディアはコンピュータ、インターネットを利用する。生徒たちは自分の表現したいことのテーマを設定し、内容を分担して英文を作成しパソコンで入力する。グループで全体のレイアウトを話し合いながらホームページを完成し、相互に発表し評価する。

③国際コミュニケーション学

1) 設置のねらい

『国際』というテーマでは、既存の教科領域をこえた複合的な地球規模の問題を扱う。また、『コミュニケーション』というテーマでは、学習者自らが探究し、仲間と協力し分析、批判、発表するコミュニケーション能力を育成する。

2) テーマ例

異文化理解や、人権、環境、平和、開発等の地球規模の問題を扱い、既存の教科との関連でいうと、現代社会、倫理、国語表現、英語の各教科が扱う領域とが関連する。

3) 展開事例

民族問題国連会議を世界の文化の異なる人々と開催する。文化の異なる人々とネット上で、言語は英語を中心に世界の民族問題の現状を調査、学習する。上記の民族問題の調査、学習と議論を通して世界の民族問題宣言文を、文化の異なる人々と共同で作成し国連会議として採択する。

④共生と平和の科学

1) 設置のねらい

現代社会の諸問題を共生と平和という観点から学習し、新しい認識や発想を提供し、先の諸問題を共生と平和という視点から統合し問題を解決する手段や方法を学ぶ。

2) テーマ例

福祉、共生、民族、紛争、社会問題、平和といったテーマを学習する。既存の教科との関連でいうと、現代社会、倫理、英語、保健、家庭科とが関連する。

3) 展開事例

教科書を発展させ上記のテーマを、ビデオや資料を通してグループでプロジェクトワークに取り組むことを前提に教師が授業を行い、各グループが自ら設定したテーマを調べ、まとめ、様々なメディアや方法で発表する。また、文学作品からこれらの問題に触れることができる。書物や映画を鑑賞し、歴史的背景や心理的側面から共生と平和の問題を考え、議論する。